1人1台の情報端末を活用した新しい学びのスタイル(亀高小スタイル)

授業前 ／ 授　業 ／ 授業後

授業のハイブリット化

考えの「見える化」／ 多様な発表方法 ／ 個人に応じた学習 → 主体的な学び　対話的な学び　深い学び

児童

○オンラインの教材を活用した「予習」
- ☆授業動画の視聴
- ☆個に応じた電子ドリル

予習だけではなく、過去のデータから、これまで学習した「既習事項」を確認することで自信をもって授業に臨めます。

○家庭と連携した学習
- ☆理解度に応じた復習
- ☆興味関心に応じた「調べ学習」
- ☆「発展学習」で学習意欲UP

児童

○全員が自分の意見で参加！
教員の発問に対して、自分のタブレットから、自己の意見を伝えることができます。

○理解度に応じた個別学習！
電子ドリル等を活用して、ひとりひとりの理解度に応じた問題に、自分のペースで取り組めます。

過去の学習データ・インターネットでの調べ学習もできます。

教員

○効率的・効果的な教材準備
- ☆教員間での教材共有
- ☆教材の電子化

児童の学習データを共有できます。

○データに基づいた授業改善
- ☆児童の理解度が「見える化」
- ☆児童の学習状況が「データ化」

→　児童の実態に応じた授業改善

教員

○ひとりひとりの考えがわかる！
挙手をして全体の前で発表することが苦手な児童の意見もタブレットで把握することができます。

○ひとりひとりの理解度がわかる！
- ☆電子ドリルの取組状況の確認。
- ☆アンケートソフトの活用。

→　理解度がわかります。

授業だけではわからなかった児童のがんばりを振り返って評価できるので、児童の「自己肯定感」が向上します。

実施に必要なツール

1人1台の情報端末 ／ 教育支援クラウド ／ 通信ネットワーク整備